

令和7年度 第2回 学校運営協議会 議事録

時間：令和7年9月20日(土) 9:45～10:10

場所：神奈川県立相模原城山高校 応接室

【出席者】(以下敬称略。順不同)

学校運営協議会委員

- ・大石 進 横浜リゾート&スポーツ専門学校長
- ・山田 裕康 相模原市立中沢中学校校長
- ・小玉 敏也 麻布大学教授
- ・伊藤 康宏 学校法人岩崎学園マーケティング・教育事業創造本部本部長
- ・岩村 卓也 神奈川県立相模原城山高等学校 PTA 会長
- ・樋口 一孝 神奈川県立相模原城山高等学校校長

本校職員

- ・瀧川 美樹 神奈川県立相模原城山高等学校 副校長
- ・小野 貴史 神奈川県立相模原城山高等学校 教頭
- ・尾身 博之 同 教諭(総務グループ 記録担当)
- ・舟久保さくら 同 教諭(総務グループ 記録担当)

【欠席者】

- ・高野 朝枝 相模原市立城山公民館館長
- ・石坂 智 企業庁相模川水系ダム管理事務所所長
- ・鈴木 満博 相模原市立広陵小学校校長
- ・安西 勝正 城山自治会会長

【議 事】

1. 開会のことば(瀧川)

- ・本日は「地域連携部会」として行う。
- ・また、本日は文化祭の当日である。一所懸命努力している生徒の様子を見てほしい。

2. 校長あいさつ(樋口)

- ・10:00～13:30 文化祭一般公開を行っている。昨日は内部公開を行った。
- ・文化祭会場についての案内。
- ・城友会は旧城山高校の同窓会である。その展示を行っている。
- ・PC部は11:00から神奈川工科大学との連携授業を行う。他高校2校の生徒も参加している。バーチャル体

験や e スポーツの体験ができる。見ていただきたい。

・本日の趣旨説明

地域連携部会である。本校には相模原市全域から生徒が登校しているので、地域連携は意義深い。

今後どのようなことができるのか、生徒に何ができるのか、という切り口で本日の生徒の生の活動ぶりを御覧いただき、アンケート用紙に忌憚のないご意見を賜りたい。

何ができて、何ができないか、ちょっとした後押しがあれば行動できるハードルはどの程度なのかといった、ご意見を賜りたい。

3. 出席者紹介

・第 1 回学校運営協議会に欠席されたお二人から、自己紹介。

小玉敏也委員。伊藤康宏委員。

4. 情報交換

(山田) 夏休み中学校ボランティアで、5～6 人の相模原城山高校生徒が中沢中学校に来てくれ、中学生に対応してくれた。

勉強を教えてくれ、また進路相談にもものつてくれていた。なお中沢中学校は創立 40 周年を迎える。

(岩村) 夏休み前にトラブルのあった生徒も、休み明けからは襟を正して生活している。学校や親の力が大きかったが、地域の目もあったと思う。

(大石) デジタルとアナログの共存が大切。スウェーデンでは教科書をタブレットから紙に戻そうという動きがあるそうだ。紙に書くことも、タブレットに入力することも大切。生徒たちはバランスをとった中で育ってほしい。

(岩村) アナログとデジタルの双方を使わなければならない。生徒も教員も難しい時代である。

(小玉) 大学ではレポートを書くときに、生成 AI を使っている者もいるが、それを見抜く方法もある。

(岩村) 学費を出して学校に行かせているのだから、チャット GTP を使うのではなく、自分の頭を使ってほしい。

(伊藤) AI に向かって「チャット GTP を見抜けるものか」と尋ねたところ、「部分的にはできる」との答えであった。レポートのあり方を考えていかなければならない。問の出し方などに工夫が必要だ。

(瀧川) 皆様のお手元にある、本日の文化祭のパンフレットであるが、この表紙は生徒が描いた。それを印刷に適するようにと思い、教員が生成 AI で加工して入稿し、印刷・配布した。描いた作者は生成 AI で手を加えられたことが不本意だったと言った。使い方を考えていきたい。

5. 閉会 以上をもって第 2 回学校運営協議会(地域連携部会)を終了し、後は委員は散会して、文化祭の生徒による発表・展示などを見て回り、感想・意見等をアンケート用紙に記入して提出してもらうこととした。

【委員から寄せられたアンケート結果。順不同】

- ・生徒さんたちが楽しそうに活動している姿に御校の活気とパワーを感じました。中学校の文化祭とは違った形で、自分たちの力でやり遂げるという自立している様子が伺えました。

一番近くにある中学校として地域連携の場でお借りしたいのは部活動ではと思っています。今も吹奏楽で一部お世話になっています。いわゆる旧津久井(中山間地域)の中学校では小規模化の波が大きく訪れており、複数校による合同部活動、自分の学校にない部活を他校に出向いて行う拠点校活動が、なかなかうまく進まない状況です。

地域移行についても本校のバスケットボール部が市の実証事業として複数校から生徒が参加し、休日の活動、試合を行っています。活動時間、保険等処々の課題もあろうかと存じますが、何か少しでもできることを探っていければと思います。今後共よろしくお願ひ致します。
- ・生徒のいきいきとした姿が見られました。
- ・ひまわりクラブやダンス部など地域に出て活躍する部活を増やせると良いと思います。書道部や陸上部も昔よく出ていた記憶があります。→陸上部は根小屋小や広陵小に走り方教室指導(連合運動会の前だったと思います)に行っていました。

逆に地域の方に外部講師として来てもらえるような取り組みがあると良いですね。
- ・昨年よりも主体的かつ楽しそうに活動しておられて素晴らしいと思いました。
- ・部活による地域連携の可能性も大きいと感じました。(例) PC 部：プログラミング教室(小学生対象), 生物部：ミニ水族館の一般公開デー
- ・生徒がそれぞれの学級や部の創意を生かして、店やイベントを運営できている点そのものが素晴らしいと思いました。
- ・地域の方々や小中学生の来校もあり、地域に根付いた行事になっていることを、あらためて認識しました。
- ・生徒会の皆さんが企画、運営、場所の確保にずいぶん努力されたかと思うと、本当に高校生の力は素晴らしいと思いました。
- ・もし、資金の確保に苦労されているとしたら、近隣の店や事業者さん等に、寄付をお願いしに行くことも学習になるかなと思いました。
- ・外部の人が入るので、スマホによる高校生の無断撮影とか、SNS へのアップとか、大丈夫かなと思いました。

(以上)